

ご参加いただきました皆様、
ありがとうございました。

■ 開催概要

開催日程 11月30日（火）

開催テーマ 食・地域資源、医療・ヘルスケア

登壇者数 計9社（食・地域資源6社、医療・ヘルスケア3社）

■ 登壇者（プレゼンター）一覧（発表順）（各プレゼンターのプレゼン内容の詳細は次頁以降よりご確認くださいませ）

＜食・地域資源＞

ピッチタイトル	プレゼンター名
①「世界中どこでも農業が経済を変える」	スパイスキューブ株式会社
②「大豆ミートをはじめとした植物由来食品製造押出機の製造販売(開発装置、生産装置)」	株式会社テクノベル
③「昆布革命！」	株式会社天満大阪昆布
④「救缶鳥プロジェクト」	株式会社パン・アキモト 関西営業所
⑤「エンドウミートを軸としたプラントベースフードの開発」	リンクフード株式会社
⑥「未活用農産物の原料化プラットフォーム」	株式会社エーエスピー

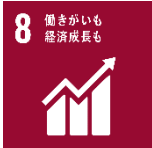
＜医療・ヘルスケア＞

ピッチタイトル	プレゼンター名
①「新しい日本のベースとなる日を目指して」	阪神食品株式会社
②「3秒で健康チェック！世界初の毛細血管解析システムを起点としたオープンイノベーションのご提案」	あっと株式会社
③「大阪発！MR技術ですべての人の健康を支えるプロジェクト」	株式会社テクリコ

★ご興味があるピッチ内容がございましたら、事務局（info-osaka-SDGsbiz2021@yano.co.jp）までご連絡くださいませ。

※各プレゼンターの詳細資料は画面左下矢印ボタンより

【食・地域資源】
プレゼンター

世界中どこでも
農業が経済を変える

企業名	スパイスキューブ株式会社		
所在地	大阪市西区新町2-11-15-6F	資本金	1,000,000円
設立	2018年2月14日	従業員数	4名
企業URL	https://www.spicecube.biz/		
事業内容	植物工場の事業化支援、農業装置の設計開発		

SDGsビジネスを始めたきっかけ

農業人口減少による食料自給率と高齢化社会、障害者雇用問題、自粛規制中の生活支援などLED照明と養液循環する栽培技術であれば、SDGsに貢献しながら高品質野菜生産が実現できるからです。この栽培技術の普及を企業だけでなく個人の生活まで浸透できればより良い社会に変わると考えております。更に栽培過程で生じる植物の成長について観察写真情報を共有することで、遠隔地に住む想いを寄せるひととのコミュニケーションがIoT装置で簡単にできるようになります。

SDGsビジネスの概要とポイント（特徴、ビジネスモデル含む）

■一般企業のオフィスインテリアや個人住宅に簡易的に設置できる農業装置（本棚サイズの植物工場+成長記録共有できるアプリケーション）のパッケージ開発販売を行う。

★農業装置のポイント

- ①100株/月程度の葉物野菜の安定生産が可能 ⇒ 個人や一般企業にとって、農業ビジネスに参入できるチャンス
- ②無農薬、排水0、メンテナンスフリー⇒ 従来の畑よりも導入コスト、営農経費を削減して農業が実現
- ③一般住宅やちょっとした休憩所のデッドスペースにも簡単設置できる気軽さと扱いやすさ⇒ 誰でも農業にトライでき、世界中どこでも農業が可能に
- ④植物成長を観察記録するアプリケーションの開発も視野 ⇒ 品質改善や思い出につながるデータ蓄積が可能に

SDGsビジネスが社会や顧客に与える影響・効果

SDGsに加え、国内社会課題（就農者現象、食料自給率）も解消できる可能性がある。これらの取組は個人が個々に取り組む流れと企業参入で組織として取り組むダイナミックな流れをつくるのが重要だと考えております。本事業を活用して農業参入する企業を増やすことが経済成長も地球環境にも寄与してくれると想定しております。

マッチングの内容・要望など

マッチング先として希望する業種/業界	連携することで想定される連携先の利点
【装置の販売先】【マーケティング支援先】 【農業装置の共同開発先】 商社、不動産、生鮮食品流通、外食、福祉施設等	経済的価値、企業ステータス向上、障がい者の方々の雇用実現等

大豆ミートをはじめとした植物由来食品製造押出機の製造販売 (開発装置、生産装置)



企業名	株式会社テクノベル		
所在地	大阪市城東区東中浜7-8-5	資本金	30百万円
設立	1991年4月	従業員数	21名
企業URL	https://www.technovel.co.jp/		
事業内容	押出機並びに押出機付帯設備の製造・販売		

SDGsビジネスを始めたきっかけ

-押出機業界において(特に欧州)、食品向けの装置開発がトレンドになっているため

SDGsビジネスの概要とポイント (特徴、ビジネスモデル含む)

■ プラスチック成形機的一种である押出機の専門メーカーであり、豊富なコンパウンドノウハウを有する同社が、植物由来製品(大豆ミート等)を製造するための押出機を製造販売する。

《同社製品のポイント》

- ① 市場には出回っていないサイズの開発用押出機もラインナップ
- ② プラスチック向け押出機製造で培ったノウハウを生かした装置設計

SDGsビジネスが社会や顧客に与える影響・効果	マッチングの内容・要望など	
【社会】 -CO2排出量や生産時の水消費量といった観点から、植物由来食品は環境に優しい -世界的な食糧問題に対して、効率的な蛋白質摂取を可能に 【消費者】 -大豆ミートを始めとした植物由来食品の研究が盛んになることにより、より美味しい食品製品を購入することが可能に	マッチング先として 希望する業種/業界	連携することで想定される連携先の利点
	【装置販売における協業先】 代替肉製造装置の販売仲介に興味をお持ちの会社様	競合他社よりも安い高品質の代替肉製造装置の販売が可能に

昆布革命！



企業名	株式会社天満大阪昆布		
所在地	大阪市北区天神橋1丁目13番8号	資本金	1,000万円
設立	昭和62年8月8日	従業員数	5名
企業URL	https://shop-kombu.com/		
事業内容	業務用だし昆布・佃煮昆布・各種昆布製品の製造・卸・小売		

SDGsビジネスを始めたきっかけ

地球上において昆布が自然に生育している地域は、日本以外にはほとんどありません。その昆布も自然環境の変化により毎年生産量が減ってきていますが、消費も減少方向に向かっています。昆布が一般に使われなくなってきた理由として、①だし昆布の使い方が難しい、②和食を家でつからない、③だし殻昆布を捨てるのがもったいない、の3つがあげられ、その結果「顆粒だし」が使われています。

日本人なら本物のだし昆布を使った料理が美味しいのをみんな知っているでしょう。にもかかわらず、使い方が面倒なために使用用途が限られ、まただし殻を廃棄してしまうのでは、忙しい生活のなかで多様性のある食事を楽しみ、フードロスをなくそうという現代の潮流に全く逆行することになります。

日本特有の食材「昆布」でSDGsに挑戦することで現状を打破し、健康長寿社会の実現に役立ちたいと思います。

SDGsビジネスの概要とポイント（特徴、ビジネスモデル含む）

■ だしのよく出る上等の出し昆布を1mm幅に切った「昆布革命シリーズ」の開発と販売を行う。

《同社製品のポイント》

- ① 1mm幅に切ることで、断面が増え、「UMAMI」成分が37%アップ
- ② 水出しすることで日持ちが1週間程度長持ち
- ③ 和洋中エスニック料理との相性も抜群！
- ④ 残った出し殻昆布は、そのまま食材として全く廃棄することなく完全に使い切ることが可能（オリーブ漬けなど）



SDGsビジネスが社会や顧客に与える影響・効果	マッチングの内容・要望など	
一般的に昆布は高くて使いにくいとのイメージがありますが、出しを取った後の昆布を捨てるからそのように思われていると思います。出し殻も健康的な食材として完全に利用すれば全く食糧廃棄にもならず、自然とSDGsビジネスに繋がります。食品は本来ならば少しの工夫で廃棄しなくてすむものと思います。	マッチング先として希望する業種／業界	連携することで想定される連携先の利点
	①【販売先】 外食産業、料理学校、健康食品関連事業者 等 ②【資金調達先】（販路拡大や商品開発のための資金確保） 金融機関 等	①付加価値の高い昆布を活用できる。 ②投融資により、日本の食文化の健全な継承でSDGsに貢献。

救缶鳥プロジェクト



企業名	株式会社パン・アキモト 関西営業所		
所在地	大阪市中央区内本町1-4-12 NPOビル2F	資本金	35百万円
設立	昭和22年12月	従業員数	60名
企業URL	http://www.panakimoto.com		
事業内容	ベーカリーの運営、防災備蓄用缶詰パンの製造・販売、救缶鳥プロジェクト		

SDGsビジネスを始めたきっかけ

国内のある自治体から賞味期限が切れる備蓄品を廃棄して欲しいと依頼がありました。そんな中、海外の飢餓国に賞味期限が残り少なくなったパンの缶詰を義援物資として贈り届ける事で大変喜ばれる事が判り、プロジェクトを開始しました。

SDGsビジネスの概要とポイント（特徴、ビジネスモデル含む）

■ **パンの缶詰を自分（自社）の為に備蓄しながら同時に社会貢献が出来る「救缶鳥プロジェクト」**を提供。

◀ プロジェクトの流れ ▶

- ① 防災備蓄用として缶詰パンを購入希望者（企業・自治体・個人）に販売
- ② 缶詰の賞味期限が切れる6か月前に購入者へ案内し、賛同を頂いたところから同社が缶詰を回収
- ③ 回収した缶詰を民間の企業や団体を通じて海外の飢餓国や被災地へ義援物資として贈呈。

SDGsビジネスが社会や顧客に与える影響・効果	マッチングの内容・要望など	
今まで国内外合わせて累計40万缶以上の缶詰が届けられました。本当に必要としている国や地域に責任を持って届けて、更に現地に届けたレポートを賛同者へ通知して、「義援の見える化」を行っています。世界では、1分間に17人が飢餓で命を失い、その内5秒に1人が5歳の誕生日を迎えることなく亡くなっています。当プロジェクトは、日本人のやさしさ、大阪からのやさしさを困っている人たちに届けます。	マッチング先として希望する業種／業界	連携することで想定される連携先の利点
	SDGsに本気で取り組んでいる企業・団体 ・CSR活動の一環として参画したい企業 ・教育の一環として参画したい学校 ・防災食の備蓄推進や食品廃棄ロスに取り組みたい自治体	・災害に対する備えが可能になるとともに、飢餓国や被災地への支援を通じた社会貢献が可能。 ・フードロスの削減

エンドウミートを軸としたプラントベースフードの開発

プラントベースフード・・・植物由来の原材料を使用した食品



企業名	リンクフード株式会社		
所在地	大阪府豊中市蛸池中町2-3-1ルシオーレB棟305号室	資本金	750万円
設立	2018年8月	従業員数	3名
企業URL	https://www.link-food.com/		
事業内容	食品原料と飼料原料の輸入販売、食品の企画・開発・販売・輸出、食品事業の受託・コンサルタント		

SDGsビジネスを始めたきっかけ

海外と接点を持ち、食品事業に20年以上携わる中で、世界の食品需給状況を実感として体験、環境調和型へ「食」も産業構造が移り変わる転換期に入ってきた中でいかにして食料の安定供給に寄与するかという視点で、「動物性から植物性」という事業に取り組んでいます。「動物性から植物性」という事業が、結果としてSDGsビジネスに繋がっていました。

人口増加と経済成長による食生活の変化により、タンパク質の需要が増加する一方、必要なタンパク質の供給が追いつかなくなる「タンパククライシス」が懸念されており、昆虫由来や藻由来のタンパク源の開発や細胞培養による培養肉技術の開発が行われている中、既存の肉製品や水産品に近い食品原料を植物性で再現できれば、地球環境、貧困、健康といった社会課題の解決の一助になると捉えています。

SDGsビジネスの概要とポイント（特徴、ビジネスモデル含む）

■ 植物肉（エンドウミート）を軸にしたプラントベースフードの開発と供給を行う。

◀ ビジネスモデル・製品のポイント ▶

- ① 自社で原料となる植物性原料の輸入（原料の調達）から最終製品まで携わることで、顧客の要望に柔軟に対応。
 - ② 大豆由来の食品（大豆ミート等）では実現できないアレルギー対応食が実現。
- ※現に欧米では、アレルギーや遺伝子組み換えの観点でソイフリー（大豆製品を含まない食品）がグルテンフリー（小麦等に含まれる「グルテン」を摂取しない）と同列で広まっている。



SDGsビジネスが社会や顧客に与える影響・効果	マッチングの内容・要望など	
	マッチング先として希望する業種／業界	連携することで想定される連携先の利点
<ul style="list-style-type: none"> ・タンパク源の安定供給により良質なタンパク質の高騰を防ぐ。 ・効率がよく、良質なたんぱく源を供給することで世界中の人々の栄養不足の解消と健康維持へ。 ・海洋水産資源の乱獲防止 	<p>【プラントベースフードの販売先】 商社、食品卸、食品関連事業者様</p> <p>【食品加工における委託先】 食品加工を受けていただける食品工場</p>	<p>動物性たんぱく質の代替として注目、市場の拡大が予測されているプラントベースフード事業に参入することで、新たな収益源を確保できる 等</p>

未活用農産物の原料化プラットフォーム



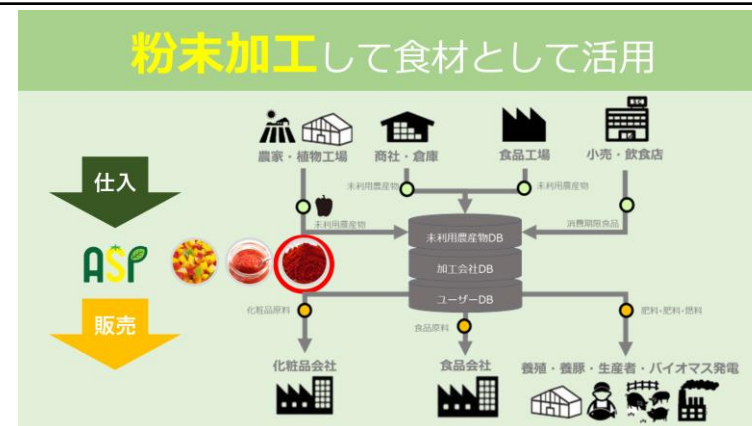
企業名	株式会社エーエスピー		
所在地	吹田市岸部南1丁目24番23-405	資本金	4,000千円
設立	2018年2月26日	従業員数	3名
企業URL	https://www.agrisp.jp/		
事業内容	農産物安定供給、未利用農産物原料化、出荷調整・鮮度保持、グリーンヘルスケア		

SDGsビジネスを始めたきっかけ

フードロスに加え、食べるには問題ないもののサイズや傷など外観上の理由により廃棄されている。このような『未活用農産物』も外観の問題がなくなるよう加工して食品原料化し、付加価値を高め、食品として活用することで生産者の収益向上と環境負荷低減をしながら食料自給率をアップさせようと考えた。

SDGsビジネスの概要とポイント（特徴、ビジネスモデル含む）

- 農家や植物工場、商社、加工会社等から未利用食材を仕入れ、粉末加工として販売を行う。
- 未活用農産物を有効活用し、フードロス削減を実現する仕組みづくりを行う。



SDGsビジネスが社会や顧客に与える影響・効果

日本には京都のおばんざいのように無駄なく使い切る食文化が根付いています。これを継承しながら、「見映えと機能性」を生かした新しい食材を普及し、食料自給率を上げるだけでなく、日本を代表するSDGsフードとして大阪万博にて世界へ発信していきます。

粉末食材として新しい食文化を定着することで食料自給率のアップと環境負荷の低減に貢献します。また長期保管できる食材として豊作時などで廃棄されていたものも備蓄食として安定供給され、フードロスや規格外品という言葉が無い社会を作ります。

マッチングの内容・要望など

マッチング先として希望する業種／業界	連携することで想定される連携先の利点
<p>「①協業先」</p> <ol style="list-style-type: none"> 加工残渣の廃棄コストの削減やSDGsに取り組みたい食品会社・食品加工設備メーカー、飲食店、小売店等 新しい原料・商品開発に取り組みたい食品関連会社、小売業 地域産業の活性化をしたい自治体 <p>「②資金調達先」</p> <p>(研究開発やスタッフ増員に伴う資金需要) VC、金融機関、出資をお考えの企業様等</p>	<p>廃棄コストの低減、加工設備の稼働率向上、新しい原料開発の可能性等</p>

【医療・ヘルスケア】 プレゼンター紹介

新しい日本のベースとなる日を目指して



企業名	阪神食品株式会社		
所在地	大阪市此花区西九条1-1-20	資本金	1,000万円
設立	昭和56年6月創業	従業員数	220名(グループ含む)
企業URL	https://hanshin-shokuhin.co.jp/		
事業内容	食品事業、店舗事業、FA（フレンドリー・アプローチ）事業		

SDGsビジネスを始めたきっかけ

コロナ禍で先が見えない中、世の中からコロナウィルスをなくす事で、持続可能な社会が実現するという理念の元、1年掛けて紫外線滅菌装置を開発いたしました。食品サンプルへの実証実験でも成果を出す事が出来たことから、大阪のため、日本のために新規事業を立ち上げました。

SDGsビジネスの概要とポイント（特徴、ビジネスモデル含む）

■ 食品卸から創業した同社が紫外線（UVC）ランプを使用した**大空間専用**の滅菌装置を開発。

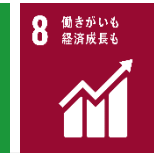
《製品のポイント》

- ① 反射板(特許出願中)を使用して、360度全方位から照射してウイルスが死滅させることが出来る。
⇔ 他社製品ではウイルス（菌）の片面にUVCを照射するため、全てが滅菌されていないことが多い。
- ② 日本とアメリカにて特許出願中であり、世界基準となることを想定。



SDGsビジネスが社会や顧客に与える影響・効果	マッチングの内容・要望など	
	マッチング先として希望する業種／業界	連携することで想定される連携先の利点
<ul style="list-style-type: none"> ・滅菌レストラン・飲食店での会食が出来たり、マスクの無い生活が可能になる事もある。 ・元の生活を取り戻すきっかけとなる。 ・世の中から生物兵器(炭素菌)の恐れがなくなる。 	<p>【装置のユーザー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・量販店様や金融機関様の大規模空間を要する業種 ・オペレーター業務等をされている企業様 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・空気環境の改善により、人々の健康維持に貢献 ・安心・安全な「食」の環境づくりに貢献

3秒で健康チェック！世界初の毛細血管解析システムを起点とした オープンイノベーションのご提案



企業名	あっと株式会社		
所在地	大阪府中央区今橋2-2-17	資本金	7,200万円
設立	2009年11月	従業員数	9名
企業URL	https://kekkan-bijin.jp/		
事業内容	健康検査機器の開発製造および販売、健康事業社へのコンサルティング及び物品販売		

SDGsビジネスを始めたきっかけ

祖父は認知症、祖母は糖尿病、両親は癌で他界しており、生活習慣の重要性は毛細血管観察により感じていた。その非常に有用性の高い非侵襲毛細血管観察装置を科学にし、医学にしていこうと、出来る限り多くの方に自身の体内状態をチェックできる機会を提供し、生活習慣を見直す様な取り組みをする切っ掛けにしたいと考えて為。

SDGsビジネスの概要とポイント（特徴、ビジネスモデル含む）

世界初の“毛細血管テクノロジー”を提供するヘルスケア・未病領域のベンチャーである同社が**人の指先の毛細血管画像を解析することで、3秒でその人の健康状態が分かる世界初の毛細血管解析システム**を開発。

◀ 毛細血管解析システムの特徴 ▶

- 皮膚を傷つけず、容易に指先皮下の毛細血管を可視化し、毛細血管画像を定量化する事に成功した。（大阪大学医学系研究科との共同研究成果）
- 取得した毛細血管画像を、クラウド解析システム「CASRating」にアップすることにより、毛細血管の長さを3秒で自動解析することを世界で初めて実現
- 毛細血管の状態をもとに健康状態を点数化し、同時に食生活の偏りや運動不足など、「未病指標」の開発に成功（理化学研究所との共同研究成果）
- 東北大学医学部眼科学教室より緑内障診断の一項目として爪床部毛細血管測定が有用であると日本緑内障学会にて発表

SDGsビジネスが社会や顧客に与える影響・効果

日本の糖尿病の患者数は316万人（2014年統計）に達しており、現在その予備軍を合わせると約2,000万人までのぼると推定される。WHOの調査(2015年)によると、日本の糖尿病の医療費は8兆円であり、糖尿病治療剤の日本市場は4,886億円に上っている。一方、日本のヘルスケア市場は、予防や健康管理、生活支援サービスの充実、医療・介護技術の進化などにより、2013年16兆円から2020年には26兆円まで大きく拡大すると予測されている（日本再興戦略）。その中で本研究開発とかかわりのあるセルフケア健康機器の市場規模は、約2,341億円（2015年）と予測（矢野経済研究所）される。健康指標の構築により医療費の削減に貢献する。

マッチングの内容・要望など

マッチング先として希望する業種／業界	連携することで想定される連携先の利点
【システムの販売先】 【ヘルスケア・健康改善の領域に関心があり、オープンイノベーションを推進したい事業者様】 研究機関・製薬企業・薬局・ 健診機関・医薬卸企業 等	世界初の毛細血管解析システムに関与することでヘルスケア分野の事業領域が拡大すると共に、世界中の人々の健康維持・増進に寄与できる。



大阪発！MR技術ですべての人の健康を支えるプロジェクト

企業名	株式会社テクリコ		
所在地	大阪市北区梅田1-1-3 大阪駅前第3ビル	資本金	3百万円
設立	2005年4月15日	従業員数	7名
企業URL	https://rehamaru.jp/		
事業内容	メディカルヘルスケア分野におけるソフトウェア・システムの研究開発、製造、販売及び運営		

SDGsビジネスを始めたきっかけ

知人が脳卒中で倒れたことをきっかけに、リハビリの現状を知り、Mixed Reality(複合現実)技術を用いた認知機能障害者向けリハビリテーションシステム「リハまる」の開発を行い、事業を進める中で、超高齢化社会となる日本、そして今後、医療が進歩するにつれて死亡率が減少することにより全世界で高齢化が進んでいくことを再認識した。要介護者等について、介護が必要になった主な原因についてみると、加齢に伴う疾患の代表例でもある「認知症」が18.7%と最も多い割合になっており、現在展開をしている「リハまる」を脳血管疾患罹患後のリハビリだけでなく、「認知症」に対して展開することで、“早期発見”・“予防”につながるのではないかと考えている。2025年に大阪万博が開催されることを機会に、日本から世界へと展開し、“すべての人に健康と福祉”を届けたいと考えたことがSDGsを強く意識するきっかけとなった。

SDGsビジネスの概要とポイント（特徴、ビジネスモデル含む）

■ MR（Mixed Reality；複合現実）技術を用いた、脳卒中・認知症患者をはじめとする高次脳機能障害に対するリハビリテーションシステムを販売する同社が、「認知症」に焦点を当て、“早期発見”・“予防”が可能となる個人向けのMRアプリ「リハまる Go」を開発。

MR技術を用いたリハビリシステムを展開する企業は世界でも希少。

◀ 「リハまる Go」のポイント ▶

- ① MR（Mixed Reality；複合現実）技術を用い、“エンターテインメント性”を付加 ⇒ 楽しみながら認知症の“早期発見”・“予防”へ。
- ② 誰もが使いやすい仕様の下、毎日、家で手軽にトレーニングが可能。
- ③ 関西医科大学との共同研究に基づいた医学的知見をベースとしている。

SDGsビジネスが社会や顧客に与える影響・効果

“認知症”という疾患に対しては、国民の意識が高く、国や民間による高齢者へのアンケート調査報告において「認知症（認知機能低下）を予防または進行を遅らせることができるのであれば、自身で対策に取り組むか」という質問に対しては90%以上がやるという回答。一方で“簡単な内容であれば”という条件付きが3割程度存在し、実際に何か取り組んでいる人の中で調査した結果では、“何が予防につながるかわからない”と回答した人が多く存在する。“楽しみながら”“効果のある”予防が実施でき、れば、健康寿命の延伸、医療費の削減のみならず、すべての人が健康であり、幸せに暮らせる世界を展開できると考えている。ITを使用するので、場所や環境に依存しないため、大阪、日本、そして世界へと波及させることができる。

マッチングの内容・要望など

マッチング先として希望する業種／業界	連携することで想定される連携先の利点
<p>【 ①事業展開に向けた協業先 】 医療／福祉・ヘルスケアの業界やそれに関連する業種、「自宅での予防という観点から住宅・建築関係」「携帯などのキャリア」等</p> <p>【 ②資金調達先 】 CVC、出資をお考えの企業様 等</p>	<p>ここまで培ってきたエビデンスを基にしているため、実現性が高く、スピード感をもって事業展開を行うことができます。新規性や競争優位性も高いため、日本のみならず、世界で“初”の取り組みを実施することができます。</p>